

令和7年度 学校経営計画表(中学)

1 学校の現況

学校番号	中学3	学校名	茨城県立水戸第一高等学校附属中学校							課程			学校長名	御厩 祐司		
副校長名	西連地 由浩					教頭	石川 明			照沼 裕一		事務室長名	佐藤 総英			
教職員数	教諭	13	養護教諭	1	常勤講師	1	非常勤講師	0	実習教諭	0	事務職員	0	技術職員等	1	計	21
生徒数	1年			2年			3年			合計		合計クラス数				
	男	女		男	女		男	女		男	女					
	40	40		40	40		40	39		120	119	6				

2 目指す学校像

- 真理を愛する学問第一の校風の下、質が高く、活気ある授業や課題研究、社会と連携した教育プログラムを展開し、生徒が切問近思の姿勢で学ぶ学校
- 自主自立の精神を重視する自由な校風の下、生徒が何ごとにも主体的に取り組むとともに、中高・学年の枠を超えて切磋琢磨する学校
- 至誠一貫・堅忍力行の校是の下、豊かな人間性や最後までやり抜く力を育むとともに、高い目標に挑む生徒をしっかりと支援する学校

3 現状分析と課題

項目	現状分析	課題
学校経営	<ol style="list-style-type: none"> 令和3年度の開校以来、試行錯誤・創意工夫しつつ学校経営を進め、1期生・2期生を水戸一高へと送り出した。 生徒の授業満足度は、90%の目標を達成した。ICT活用も積極的に進め、茨城県立中学・中等教育学校の中で活用度第1位と評価された。 ここにしかない新たな探究プログラム「ルーツ探究・水戸一の道」を開発し、中1では日本語、中2では英語で校内ツアーを行うことができた。 	<ol style="list-style-type: none"> 中学開校から5年目を迎えるに当たり、これまでの取組等を改めて検証し、学校経営のさらなる改善・充実を図っていく。 自由記述による生徒の意見等をもとに、授業改善をさらに推進していく。 地域や関係機関と一層連携しつつ、充実した教育活動を展開していくとともに、教育活動等の情報発信を積極的に行う。
中高連携	<ol style="list-style-type: none"> 米中派遣、文理・融合講座、キャリア探究対話、探究力向上セミナー、GRITセミナーなど「+4学年」による行事を中高合同で実施することができ、参加満足度も97.4%に達した。知道プロジェクト発表会、学苑祭、歩く会、部活動体験、高校教員による特別講義等の行事も、引き続き中高連携の下で実施することができた。 第1期生の高校での活動状況について、中高連携により情報共有等を行った。 	<ol style="list-style-type: none"> アンケート等をもとに、中高合同での行事をさらに改善・充実させていく。 第1期生・第2期生の高校進学後の状況をはじめ、中高職員間の情報共有・意見交換を一層密にし、授業や生徒支援の改善等に資する。

働き方改革	1 月別の時間外在校等時間													1 月平均時間外在校等時間は前年度に比べて大幅に減少（6時間36分減）したが、引き続き業務内容の見直しや会議の効率化を図り、時間外在校等時間の減少につなげる。 2 時差出勤の積極的な活用を促す。 3 スクールサポートスタッフの有効活用、校務分掌の見直し、業務のDX化を進める。
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	平均時間外在校等時間	33:42	31:40	33:17	30:37	10:21	32:30	33:10	26:54	25:40	24:54	27:23	23:52	
	45時間以内の教職員数	11	13	13	14	17	13	12	14	15	14	15	15	
	80時間以内の教職員数	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	
	2 月平均時間外在校等時間：30時間14分 月平均45時間超過者割合：21.3% 月平均80時間超過者割合：0.0% 3 時間外在校等時間が年間360時間以内：9名													

4 中期的目標

- 1 中高連携の下で教育課程や学習・進路支援の改善・充実を進め、中高一貫教育校としても我が国を代表するリーディングスクールとして認知されること
- 2 同窓会（知道会）や福祉団体等とも連携し、経済面等で困難な状況にある者への支援や情報提供を充実させ、教育の機会均等を徹底すること
- 3 校務の合理化・効率化、働きやすい職場環境を絶えず追究し、学校運営の持続可能性を最大限高めること

5 本年度の重点目標

重点項目	
教育課程・学習支援の改善・充実	①中高連携・教科横断で授業改善を図り、生徒の授業満足度90%以上を目指す。 ②生徒全員がICT端末を有するBYOD環境の下、教育・学習活動におけるICTの有効活用を図る。 ③特色ある探究活動（ルーツ探究・水戸一の道等）の充実を図る。 ④科学の甲子園ジュニアをはじめ、他校生と切磋琢磨する「他流試合」への参加を奨励し、活躍を支援する。
進路支援の改善・充実	⑤キャリア教育を推進して進路意識を高揚させるとともに、高校と連携し難関大学や医学部医学科をはじめ生徒の第一志望実現を支援する。
中高・学年の枠を超えた活動の推進	⑥+4学年活動など、中高連携での活動や特別活動の改善・充実を図るとともに、体験型部活動を推進する。
健康・安全の確保と法令遵守の徹底	⑦最後までやり抜く力の育成や教育相談環境の整備を図るなど、生徒の心身の健康・安全を確保する。 ⑧業務改善を進め、職員の心身の健康・安全を確保するとともに、法令遵守を徹底し、違反件数ゼロを目指す。